

Books of the Month

今月の本



死を前にしたひとのこころを読み解く 緩和ケア÷精神医学

著：森田達也，明智龍男
発行：医学書院
定価：2750 円
(本体 2500 円+税 10%)

死を前にしたとき、人の心には予測できない大きな揺れが生じる。精神医学はそれをどう捉えるのか。緩和ケアは何を、どこまで、できるのか。例えば、終末期の不安やうつは治療できるのか。その決定は本当に患者の自己決定なのか。終末期の「死にたい」にはどう対応するのか。事例をもとに、緩和ケア医と精神科医が濃密な対話を重ねていく。



異界の歩き方

ガタリ・中井久夫・
当事者研究

著：村澤和多里，村澤真保呂
発行：医学書院
定価：2200 円
(本体 2000 円+税 10%)

著者らは、「心のケア」とはどのような営みなのかを根本から問い直すことを試みる。鍵になるのは「異界」をめぐる旅。べての家の当事者研究，精神科医中井久夫，思想家・精神療法師ガタリ，彼らは共通して，統合失調症などの精神疾患を「旅」「プロセス」と捉え，そこからの回復のために非日常世界をくぐり抜けていくことの必要性を説く。



LGBTQ+の 健康レポート

誰にとっても心地よい医療
を実装するために

著：日高庸晴
発行：医学書院
定価：2860 円
(本体 2600 円+税 10%)

セクシュアリティを取り巻く環境は徐々に変化してきている。しかし現実には、LGBTQ+当事者への偏見や戸惑いはまだ存在する。医療・教育現場も然りである。本書では、著者が長年にわたり行ってきた大規模調査のデータや当事者の語りをもとに、医療の必要な当事者が戸惑うことなく受診できることを実現させる方法を解説する。



看護を教える人のための ルーブリック導入講座

編集：北川明
発行：医学書院
定価：2970 円
(本体 2700 円+税 10%)

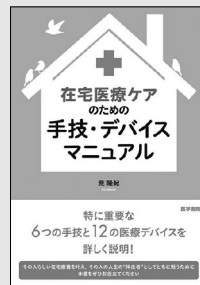
看護実践能力を評価するツールとして普及の進んだルーブリックづくりの入門書。ルーブリックは、課題に観点という視点と客観的評価基準を与えて、学生の主体的な学びと教員自身の成長を促すもの。本書は、初学者向けに段階を踏んで、ルーブリック全般の紹介から作成と導入に至る具体的な手順を、実例とともに詳説する。



事例で学ぶ 医療機関で起きる 法的トラブルへの 対処法

編集：加古洋輔，増田拓也，
長谷川葵，堀田克明
編集協力：田淵一，荒神裕之
発行：医学書院
定価：4400 円
(本体 4000 円+税 10%)

病院やクリニックでは日々さまざまなトラブルが起きている。本書は、弁護士と医療現場の専門家が、具体的な事例をもとに、トラブルへの対処法や予防法を Q&A 形式でわかりやすく解説する。医療事故や労務管理だけでなく、SNS、サイバー攻撃、医師の働き方改革など、法律知識にとどまらず、実務的なアドバイスを提供する。



在宅医療ケアのための 手技・デバイス マニュアル

著：荒隆紀
発行：医学書院
定価：3850 円
(本体 3500 円+税 10%)

その人らしい在宅療養を叶え、人生の伴走者として共に戦う医療者のための在宅医療ケアの手技やデバイスに特化したマニュアル。地域医療は、「病院完結型」から「地域完結型」へ切り替わりつつある。そのため、現場の感覚を盛り込んだ実践的な内容をイラスト、図表を多用する形でわかりやすく示した。在宅医、訪問看護師の必携書。



ヘルス ヒューマニティーズ 相互回復の実践・教育・ 研究

編著：木下康仁，井上麻未，
糟谷知香江
発行：新曜社
定価：3850 円
(本体 3500 円+税 10%)

ケアは一方通行ではない。ケアを受ける人もまたケアを提供しうる。ケアをする人を受ける人の相互回復を目的として、医学・看護・介護・教育とアート・人文学を融合する新しい学際領域が、ヘルスヒューマニティーズ（健康人文学）である。本書は、その最先端の論考と教育プログラム、幅広い領域の実践を紹介する、日本で初めての書。



大学 FD 入門 教育改善に取り組む人の 必携ガイド

編著：中井俊樹，西野毅朗
著：佐藤浩章，竹中喜一，上月翔太
発行：ナカニシヤ出版
定価：2750 円
(本体 2500 円+税 10%)

FD（Faculty Development）は、授業内容・方法を改善する組織的取り組み。大学はその実施を義務づけられ、外部から評価される。各大学での FD を組織にとっても教員にとっても実りあるものにするために、専門家たちが実践に役立つ知識・手法・工夫を伝授する。FD の実践に役立つ知識が体系的に身につく、FD にかかわる教職員の必読書。